



豊島公民分館たより

第61号

2026年3月吉日発行

発行
豊島公民分館
広報部発行責任者
豊島公民分館
分館長

市民体育祭の熱狂を未来へつなぐために

10月に行った市民体育祭は、あいにくの雨により体育館での開催となりましたが、会場は住民の皆様の熱気に包まれ、例年以上の大盛況となりました。急な変更にもかかわらず、当日の運営を支えてくださった多くのボランティアの皆様に、心より感謝申し上げます。

しかし、この伝統ある行事を今後も継続していくためには、見過ごせない課題があります。

それは「事前準備」の人手不足です。当日は多くの方が駆けつけてくださる一方で、数ヶ月前からの企画や備品調達、会場設営に携わる方は限られており、一部の負担が限界に達しています。体育祭は、当日の競技だけでなく、準備の過程から地域が手を取り合うことで完成します。

今後もこの笑顔の輪を守るため、是非「準備段階」からのお力添えをお願いいたします。一人一人の少しずつの協力が、地域を支える大きなちからとなります。

・共に、次なる感動を創り上げていきましょう。

豊島公民分館 分館長 田中和恵

はじめまして

今年度、豊島小学校の教頭として赴任しました上野広司と申します。熊本出身で幼少時代は緑川、天草での魚釣りや、バスに乗って史跡めぐりに行くのが大好きでした。

いつしか社会科の先生になりたいと思ったのは、その頃の体験が影響していると感じています。

大阪には就職を機に出てきました。初任校の刀根山支援学校では、病院に入院している児童を対象とした分教室で勤務をしました。その頃は、地域の小学校で働くとは夢にも思っていませんでした。きっと豊中市とはご縁があったのだと身に沁みて感じています。

さて、豊島小校区の印象は、地域のみなさまが輪になり、子どもたちを支え、育てる力がとても強い地域だと実感しています。本当に学校としては心強く感じています。

そして開校152年目を迎えた伝統ある豊島小の歴史の1ページを、みなさまの力をお借りしながら刻んでいけるよう全力を尽くしてまいります。

最後になりましたが、公民分館のみなさま、地域の関係諸団体のみなさま、どうぞ今後とも変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

豊島小学校教頭 上野広司

豊中市公民分館協議会 研修会全体交流会が2月14日に開催されました。

開会式は豊中市長、教育長、市議会議長の来賓挨拶のあと、大阪音楽大学生の演奏会で開会式となりました。充実した交流会となりました。今回の交流会は、各公民分館、各ブロックでの成功事例や先進的な取り組みを公民分館協議会全体で共有し、議論することで公民分館活動の推進に役立てると共に各分館交流を深めるとして開催され、テーマは ①文化関係 ②体育関係 ③広報関係 ④運営関係、の4分野に分かれ活発な意見交換が行われ充実した交流会となりました。



9月17日に開かれた
中部ブロック研修会



音大生による演奏



広報関係分科会の講演



デカパン競争



選手宣誓



障がい物競争

第67回市民体育祭は、10月19日(日)に開催されました。 残念ながら、前日からの雨の影響で、体育館の中で半日だけの開催となりましたが、障がい物競争、宅配リレーをはじめ、パン食い競争、デカパン競争、縄跳びでぼん、キャタピラー大縄跳び、動物輪くぐりなど、老いも若きも楽しめる種目で、半日精一杯汗をかき、楽しみました。最後には、参加者に大好評の、お米が賞品であるお楽しみ抽選会もあり、最後まで皆さんおおいに楽しんでいただきました。



大縄跳び

豊島公民分館主催

第67回 市民体育祭

2025年 10月19日(日)

午前9時30分～ 午後3時30分

豊島小学校 校庭にて

※雨天の都合、午前中みの開催で、体育館にて一部競技を実施します。(体育館シューズをご持参下さい。)

後援 てしま連絡協議会



大縄跳び



デカパン競争



豊島音楽クラブの演奏



パン食い競争

阪急服部西商店街のお祭り



阪急服部商店街の夏祭りが8月30日に開かれ、分館役員のかき氷も大盛況でした。



人権学習講座

9月16日(火)、
公民分館とPTA
共催の人権研修
会がありました。
中川博史氏を



講師として、ネット動画の危険性DVD視聴のあと、「愛着の課題」についての研修会を行いました。

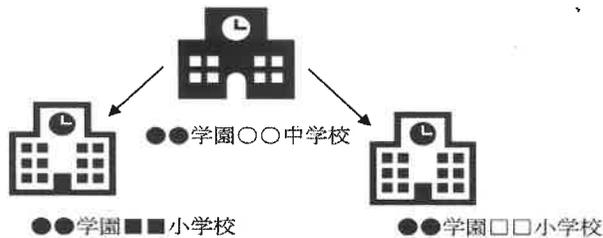
豊中市型小中一貫校教育と方向性について (第3報)

豊島小学校の廃校と地域再編案問題については、豊島地域の強い要望を受け、豊中市教育委員会が早期に白紙撤回するとした回答報告は、昨年度の分館だより第60号にて報告済であります。

今後の方向性は、豊島小学校は従来どおり第四中学校区で存続、小中一貫型小中学校型として、未来へつなげる学びの9年間、学びを通して自分の将来や社会へとつなげて行くとしています。

(注)小中一貫型小中学校とは

- 小中一貫型小中学校
- 就業年限は小学校・中学校と同じ
- 校長は各学校に1人
- 関係校を一体的にマネジメントする組織設置
- 学校間の総合調整をする校長を定め、必要な権限を教育委員会が委任
- グループ内小中学校での学校管理職兼務（お互いの校長を兼ねる等）、教職員の兼務



—特徴—

これまでの小学校と中学校と原則、同じ学校運営形態だが、通学区域において分割校を解消したうえで、小学校と中学校とで連携し一貫性のある教育環境を実現するため、学校間で連携協議するための組織設置、教員配置を行うなど仕組みを構築し共通の教育目標を掲げ、9年間の総合的な学習環境を提供します。一体性を記すものとして●●学園○○中学校など学校名称の変更を行います。

現在の小中一貫教育推進は、庄内地域：庄内さくら学園・庄内よつば学園の2校が開校、第八中学校区は2026年4月に千里わかば学園(学園制)として開校となりました。

豊中市型小中一貫校教育の方向性には賛同するも、豊島小学校の建替は10年程度後のスケジュール案となっておりますが、今後、てしま連絡協議会は進捗状況も確認しながら、適切な対応とご報告をさせていただきますので、今後ともご支援ご協力よろしくお願いいたします。

* 豊中市教育委員会のホームページで詳細ご確認願います。

学校整備の検討の方向性

整備の進め方(案)

- ・豊中市では『学校施設長寿命化計画』に基づき、建物の目標耐用年数を80年と設定し、計画的な保全により長寿命化を図ることを基本方針としています。
- ・学校施設の整備にあたっては、標準的な学校規模の確保を前提とし、築後80年を超えないよう、基本的には築年数の古い学校施設から順次整備を進めることとしました。ただし、近隣の学校とセットで改築することが効果的である場合は、周辺校を含め整備することも検討していきます。
- ・改築を予定する最初の学校群は、令和16年度までを目途に取り組みを進めます。

検討のポイント

- 工事の騒音等の学習環境への影響が最小限となる整備手法。
- 個別最適な学びと協働的な学びの充実を実現するための学校の仕様。
- 児童生徒や地域住民にとって多様な学習環境の創出する公共施設策約。
- メンテナンス及び将来の改修費用等を含めたランニングコストの最適化。

安全・安心な学びの環境を確保

- ・整備にあたっては、工事期間中においても最適な学習環境を確保することが重要です。
- ・整備手法については、学校の立地など整備計画全体に大きく影響する重要な要素のため、他の検討ポイントに先立ち、学校ごとに複数案を検討する必要があります。
- 周辺校の空き校舎を一時的に通学
- 大規模な土地(公園等)の活用(仮設校舎の建設、学校移転など)
- 周辺の学校と一時的に同居
- 学校の敷地内で単独整備

整備の実施方法や、整備後の学校の姿については、標準的な学校規模の確保や小中一貫教育の推進を前提として検討を行い、地域の皆様と対話を行いながら、整備を進めてまいります。